

1. 単元名 重さ

2. 単元の目標 【関】重さに興味をもち、身の回りに存在する様々なものの重さを測定し、それをgやkgを用いて表現しようとする。

【考】視覚的にとらえることのできない重さも天秤等の道具を使えば比べられるということや、単位となる重さのいくつ分という考え方で数値化できるということに気づく。

【表】重さについて単位と測定の意味を理解する。また、加法・減法について理解する。

【知】重さの単位〔g、kg〕について知る。

3 指導計画 (全10時間)

次	時	学習内容	評価基準
1. 重さの表し方	1	〔重さ比べ①〕 形や材質、大きさの違うものの重さを調べる方法を考え、重さ比べをする。	【考】直接比較でものの重さを比べる方法を考える事ができる。
	2	〔重さ比べ②〕 重さは単位とする重さのいくつ分で表せることを知り、単位を決めて身の回りの物の重さを測定することができる。 重さの単位〔g〕とその書き方・読み方を理解する。	【考】任意単位でものの重さを比べる方法を考える事ができる。 【知】重さの単位の「g」の意味を理解し、正しく書くことができる。
	3 (本時)	重さを測定する道具としてはかりがあることを知り、はかりで様々なものの重さを測定することができる。	【表】はかりを使って、いろいろなものの重さを測定できる
	4	重さの単位としてkgがあることを知り、1kgの重さを水などを使って作る事ができる。	【表】いろいろな1kgを作り、1kgの量感をつかむことができる
	5	粘土の変形を通して、重さの保存性を理解することができる。	【知】形が変わっても、量が同じであれば、重さは変わらないことが理解できる。
	6	はかりの目盛りの仕組みを知り、適切な単位を用いていろいろなものの重さを表すことができる。	【表】身近なものの重さを適切な単位で表すことができる。
算 〔1〕 重さの計	1	重さの測定活動を通して、重さは加減できることに気づき、重さの単位の仕組みを生かして簡単な加減の計算をすることができる	【表】重さの和や差を計算で求めることができる
〔1〕 れんしゅう	1	既習事項の理解を深める	

〔1〕 力 試 し	1	既習事項の確かめをする	
--------------------	---	-------------	--

〈選択：1時間〉

チャ レン ジ	1	体重計に乗っているいろいろな格好をしたり、水にものを浮かべた時の重さを量ったりして、もの状態が変わっても、重さ自体は変わらないことに気づく。	【関】重さの性質をいろいろな場面で考え、進んで試してみたり、測定してみたりし考えようとする。
---------------	---	--	--

4 指導上の立場

○本単元について

●重さの概念

重さは長さなどと違って、形や大きさから判断することができない。その理解の上に立って、重さの「くらべ方」を児童に考えさせてみたい。重さは目に見えるものではないので、具体的な操作を中心に重さの概念を理解させていくことが必要である。

●重さの表し方

単位については、「g」を先に示し、実際の測定の中から大きな単位「kg」を提示するようにする。1キロの量感をつかませるため、1円玉1000個や水1リットルなど身の回りのものを利用し十分な操作活動をする。また、粘土の変形による重さの保存性について体感的に理解させたい。はかりの目盛りの読み取りは、はかりにより目盛りの打ち方が違うなど難しい。2種類以上のはかりを使って十分慣れさせたい。測定する活動は、児童にとって楽しいものである。今まで漠然ととらえていた重さを簡単に測定できる喜びを味わうことができるようにしたい。

●重さの計算

重さも加法、減法が成り立つことを操作活動を通して理解させる。

○単元の系統（量と測定）

第 3 学 年
<ul style="list-style-type: none"> ● 重さの概念と量り方 ● 重さの単位 グラム [g] キログラム [kg] ● はかりの使い方 ● 重さの計算

{

4、5年の教材展開の中で継続的に指導

- 単名数表示 [1.25 kgなど]
- 重さの四則計算

}

○児童の実態

削除しています。

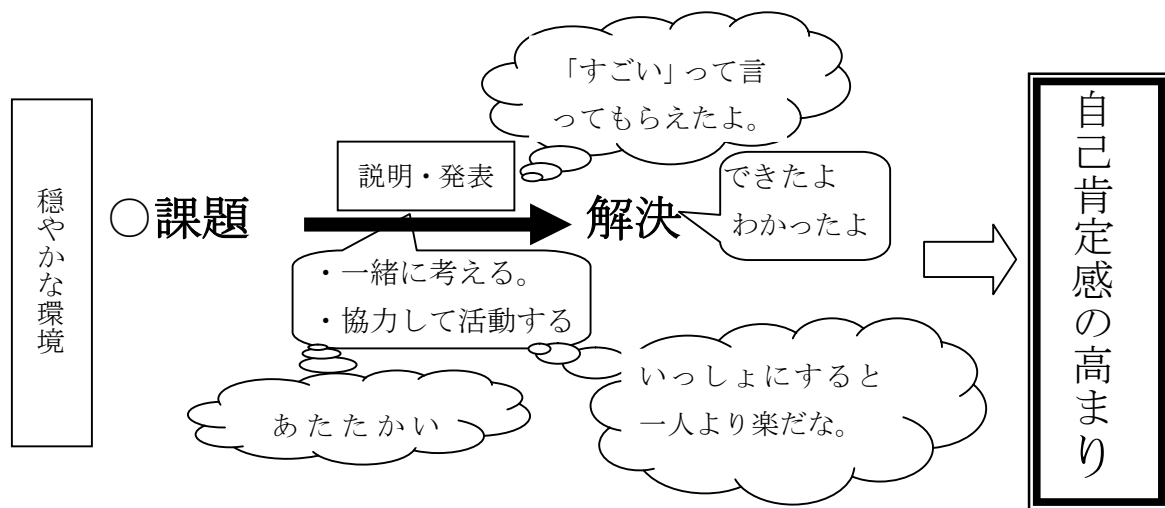
○本時について

本時では、上皿自動ばかりを使っての学習である。この時間では、目もりの読み方が課題となるだろうと予想される。本時では、はかりを十分観察させ、量れる最大量や1目もりの大きさに視点を当て、しくみを理解させたい。また、前時に行った「1円玉が1g」の確認を行わせたい。また、1000gが1kgであることも触れる。実際、量るものは第1時・第2時に使ったものをこの時間にも使い、はかりの便利さを体感させたい。

○研究主題との関わり

<p>研究テーマ 「確かな学力をつける～学習習慣の定着と学習意欲向上のための指導のあり方～」 サブテーマ 「互いを認め合いながら学習の喜びを実感できる授業づくり～チーム力を育てる～」</p>

一般的に自閉症・情緒障害児学級の子どもは、自己肯定感が低いといわれている。自己肯定感の低さは、学習の取り組みへの意欲的な面に大きく影響する。担任は、常にサブテーマを意識し続けて日々の学習活動を行っていく必要がある。なかよし学級では、穏やかな環境を基盤にし、小さな集団の中で、クリアできる課題を設定し、説明しあったり前に出て発表をし合ったりする活動を重ねている。また、一緒に考えたり協力したりする活動を通して、かかわりあうことの効果やあたたかさを感じさせることも意識している。「できること」「わかること」を教師や友だちから褒められたり賞賛されたりする喜びを感じたり、また、「自分の考え」を発表することでみんなに認めてもらった快感を味わったりすることで、学習の充実感を感じさせ自己肯定感の高まりへとつなげたい。



○家庭との連携

家庭学習では家庭にある調理用はかりの利用をお願いし、重さの計測をさせたい [「〇gに近い家庭用品をさがそう。】。はかりによって目盛りがまちまちであるので、目盛りの読み方を確認し家族団らんの中で様々な家庭用品を量って楽しむ活動をしてほしい。可能なものは、学校に持参し、翌日の学校の授業で生かしたい。

5、 本時の展開

本時の目標	<p>【表】 重さを測定する道具としてはかりがあることを知り、はかりで様々なものの測定をすることができる。</p>	
学習活動	主な発問と予想される児童の反応	支援と評価
<p>○ 1年間の復習カードをおこなう。</p>	<p>フラッシュカードを使い、1年間の復習を進める。 本時の学習の手助けにするため、数直線について触れる。</p>	<p>・ 毎日のリズムを崩さず、授業のテンポを作る。</p>
<p>つかかむ</p>	<p>1. 課題をつかむ</p> <p>T今日は上皿自動ばかりを使います。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">めあて はかりの使い方を知ろう</div> <p>Tなにかはかってみようか。 C 1円玉を確かめてみたいな。 C 1個 1gだったよ。 C 10個で 10gだね。 C 1000個のせると 1000gをさすかな。 C 1000gのところを 1kgとかいてあるよ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">はかりを使っているいろいろなものはかってみよう。</div> <p>Cめもりをよんではかるんだよ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">課題 目もりのひみつを見つけよう</div>	<p>・ 学習は、1時間通して二人が協力してできるようにする。</p> <p>・ 1円玉が 1gだということを確かめ、前時の学習とつなげる。</p>
<p>調べる</p>	<p>2. 調べる</p> <p>・ 話し合う</p> <p>Tはかりについて、気がついたことを話し合おう。 C 1円玉を数えるのは大変だったけどこれは、便利そうだ。 C 1000gまではかれるよ。 C 目もりを数えてはかるのだね。 C まっすぐ伸ばせば数直線みたいだよ。 C 1目もりは何gかなあ。 C 順番に数えてみよう。 C ○とびでよめそうだよ、 C 大きいほうから読んだほうがいいね C 大きい目もりは○gとびになっている。 C 中の目もりは○gとびになっている。 C 小の目もりは○gとびになっている。 C 大きいほうから読む。 T 見つけたことを発表しよう。 C (発表)</p> <p>・ 調べたことを発表する。</p>	<p>・ はかりは、1種類だけを使う。 ・ はかりが水平に置かれていることや、はかりが0を指していることを確かめてから使わせる。 【関】 はかりのしくみを自らがさそうとする</p> <p>・ 様々な気づきを尊重する。 ・ 必要なら数直線に直したものも提示し、数える目もりを手助けにする。 ・ 数直線での学習を思い出させ、何飛びでめもりが打ってあるかつかませる。個別に丁寧に指導する。</p>

<p>つかう</p>	<p>3. 使い方を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1・2時で使ったものを量る。 	<p>Tはかりの使い方を練習しましょう。 何から、量ろうかな。 T乾電池・ボール・ホッチキス・のり・スポンジをはかってみよう。 C乾電池は 〇gだよ。 Cスポンジは 〇gです。 Cのりは 〇gです。 C 1円玉を数えた時は大変だったけど便利だね。 Tはかりを使って、他のいろいろなものの重さを量ってみよう。</p>	<p>【表】はかりを使って、いろいろなものの重さを測定できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 針がめもりの間にあるときは、近いほうの目もりを読むことを伝える。
<p>まとめる</p>	<p>4. 分かったことを話し合う。</p>	<p>T今日の学習で分かったことや感想を話そう。 Cはかりを使うと簡単にはかることができ楽しかった。 C1めもりが何gになるか気をつけてよむ。 Cはかる前には針が〇をさしていることを確かめる。</p>	

まとめ はかりを使うと正確に速く量れる。
はかりを使うときは、最初に0に合わせて、1めもりが何gか気をつけて読む。

6 板書計画

めあて はかりの使い方を知ろう

問題 はかりを使って、いろいろなものを調べよう。

1円玉1こ—1g だから 10こ—10g 1000こ—1000

〇はかり

- 1000gまで量れる。
- 針が指し示すところを読む。
- べんり

めもりのひみつ

めもりの読み方

大 — 100g
中 — 10g
小 — 5g

はかったもの	重さ
かん電池	
のり	
ホッチキス	
ボール	
スポンジ	

はかりの約束

- はかりは、水平なところにおく。
- 最初に0に合わせて使う。

まとめ

はかりを使うとせいかくにはやくはかれる。
はかりを使うときは、さいしょに0に合わせて、1めもりが何gか気をつけて読む。